

個別志導のサクセス

代表兼塾長

近藤 成人 さん

寺に生まれたことが厭だった。そして教員一家を飛び出し、自分だけがビジネス界を志した。しかし、運命は皮肉なものだ。ビジネスを学べば学ぶほど、生き方を知れば知るほど、ここへ還ってくる自分がいた。

疾風の如く

vol.089

ひとことで言い表せない異色の塾

いわゆる「普通の塾」とは何かが違う。FCからスタートしたものの、昨年よりブランドを一新してオリジナル化。小中学部・高校部の学習指導は自立型を中心とし、時間割が存在しない。「学び放題」を標榜し、何度通っても定額料金。宿題も出さない。すべてをここで完結させるシステムで、他塾に通いながら、不明

点を質問するためにここへ通塾する生徒もいるほどだ。

さらに、幼児教育・大学受験、英会話・そろばん・習字・速読・パズルまでカバーし、今後は体育コンテントまで視野に入れているものの、一般的に塾の生命線ともいえる中学生が売り上げには最も少ないという。それでも生徒数は4校舎でのべ650名を数え、地域にその存在感を放っている。

なぜ、こんな塾が生まれたのか。

寺、教員一家……

その出自にこそごく反発

塾長の近藤成人(51)本人も「どんな塾か、なぜそうするのかと聞かれても、ひとことふたことでは説明しにくい。まあ確かに、塾としてはかなり異色かも、と思います」と笑う。しかし、その根底にはやはり独自の想いと、すべてをここに帰結させる大きな夢があった。

近藤は、寺の息子として生まれ育った。これといった理由があったわけではないが、生理的にそれが厭



で仕方なく、大学で東京に出た。

さらに、両親・祖父、そして妹までもが教育学部を出て公立校の教員を務めるという教育一家だったが、近藤だけが違っていた。教職課程は修めたもののビジネスの世界に興味を持ち、大学院修了後は業界紙の記者に。

記者とはいっても、営業から集金、取材と執筆、その後の校正まですべて自分でこなすという激務の日々。今では笑い話だが、生まれて初めて乗った飛行機がヨーロッパの非英語圏への単独海外出張だった、という逸話まである。言葉もマナーも分か

らない、公共交通の使い方も知らない外国で、しかもビジネス目的というハードな環境だったが、持ち前の行動力でそれを乗り切った。当時出会った現地の人たちは、塾経営者となった四半世紀後の今でも家族ぐるみの付き合いだ。

そんな経験が近藤の世界観を広げたのかもしれない。やがて「自分で時間をコントロールできる働き方・生き方をしたい」と、独立開業への志を抱くようになった。しかし「これ！」といったものがない。当初は自己啓発やネットワークビジネスの勉強もしたが、得るものは少なく、代わりに友人を失うだけだった。

当時を振り返り、自嘲ぎみに近藤は言う。「自分のことしか考えてなかったんですよ。そんな近藤が出逢ったのが、妻が運営していた塾と、私教育の世界である。奇しくも、近藤もまた家族と似た領域へ還ってくることとなったのだ。

ビジネスを学べば学ぶほど、原点に還っていく

もともとビジネス志向の強かった近藤、塾経営に対してもそうだったが、次第に「教育」そのものにも熱い想いを抱くようになる。夢を語り、

それを実現に導くタフな日本人を育てたい——自塾に個別「志」導と名付けたのもそんな理念からだ。そう思えるようになったのは、ドラッカーやアドラーを学んだことも影響しているようだ。彼らのように社会で認知され受け入れられている概念・思想の根底には、共通して仏教的な利他の精神が息づいていることに気づく。ビジネスでの自己実現を目指せば目指すほど、他者への貢献が鍵であることに直面することに。運命の糸という大げさだろうか、あれほど避けていた「寺」という存在や思想に紐づけられていったのである。

幼児から高校生まで幅広く受け容れているのは、その貢献意識から自塾をひとつの学びのコミュニティと捉えているからだ。今後はシニアまでもこの輪に導き、彼らの生きた知恵や哲学を還元したい、と語る近藤。「この縁を連綿とつないで、20年後、30年後には、卒業生たちが教

える側に回っているサイクルを完成させたい。それまでは死ねない」と笑った。個別「志」導の志は高い。(敬称略)



恒例の『そろばん選手権』。教科学習以外のコンテンツが豊富なのもサクセスの特徴だ



『サクセスイングリッシュクラブ』では、ネイティブとのダブルティーチング制を敷く

利他の心で志を育め 目指すは一大教育コミュニティ

近藤 成人 SHIGETO KONDO



1965年生まれ、愛知県出身。石材業界の専門紙記者を経て、塾の世界へ。父は住職で、家族全員が教員という家庭に育つ。当初はそれを避けていたが、持ち前の強い自己実現志向とビジネスマインドを追求すればするほど、その出自という原点に還っていった。自塾を単なる学習塾の枠にとらえず、幼児からシニアまで、すべてをつなぐ学びコミュニティにするのが夢。

●WEB サイト <http://www.success-okazaki.jp/>

文/松見敬彦(トリガーワークス)